

神のための良い地になる

御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。

マタイ 13 : 19-23

もし神が私の人生でみことばを蒔き続けておられるなら、自分に蒔かれたと気づく前に、どれほどの種が悪い者によって奪い去られているでしょう。どれほどの種が、一時は私の心を動かしても、問題や楽しいことに気が取られ、結局は死に至るでしょう。実際に何パーセントのみことばが私の内で根を出し、実を結ぶでしょう。一言で言えば、私はどのような土地なのでしょう。私の魂である「土地」の善し悪しは、一日の中でも変化しているのではないかと思います。ある時は、神や人々にかなり心を開いています。また別の時は、心を閉ざしたり、表面的であったり、受け入れるのがむずかしくなったりします。そのような種は、深く心に浸透することができません。

私たちの土地の深さは、明らかにイエスがこのたとえ話で私たちの注意を促したいことのひとつでしょう。岩地の表面には、土がありません。種が根を伸ばして実を实らせる場所がありません。しかし、良い地は種を深く受け入れることができます。それを育て、栄養を与え、茎を伸ばすために必要なスペースがあります。

霊に敏感な人は、心の土地を準備することに時間をかけます。祈りを通して、心が解放され、受容できる状態に保ち、神の種が育つのに最善の状態を作るために、学びや黙想を通して栄養を与えます。心配という雑草や快楽に耽る行為を寄せ付けず、より尊い目的のために土地が使われるようにします。そのような人々は、種が彼らの心にふれた後に発芽することを確認して、種を大切に育てることを学びます。日記をつけることにより、後日さかのぼってその種が象徴している知識や経験を深めている人がいるかもしれません。あるいは、霊的成長について神から示されたので、新しい霊的訓練を生活の中に取り入れる人もいます。

良い土地を維持し続けることは、霊的成長に最も大切なことのひとつです。霊的成長は、あなたがいのちを受け、また生み出す所である魂の状態によります。私たちの「土地」は、私たちが創造された場所であり、私たちが創造する場所でもあ

ります。

常に変化する私たちの魂の土地についてよく考えるよう、イエスは私たちに求めておられます。もし、私たちの魂が良い状態に保たれているなら、生活の中で神を深く受け入れることができ、自分以外の他の人々の生活にまで豊かな実を結ぶことができます。私たちがなすことすべては、良い土地から来ます。

あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。同様に、良い木はみな良い実を結びます。マタイ7：16-17

質問：

- 1 時間をとって、あなたの心の「土地」について考えてみてください。あなたの土地に神が種をまかれると、その種はどうなると思いますか。
- 2 どのようなことが、神のことばに対するあなたの受容力を高め、あるいは低くしますか。受容力を高めるために、あなたができることがありますか。
- 3 あなたにとって、与えられた神の種を育てること、栄養を与え、まわりをきれいにして十分なスペースを与えるとは、どのようなことを意味しますか。

祈り：どのようにしたら、常に受容力が高い良い土地を生活の中で維持することができるか、神が示してくださるよう求めてください。ただ単に神のものを深く受けるだけでなく、あなたの内に主が望んでおられる実を結ぶこともできるように願って求めてください。